【 出 品 目 録 】

令和６年度　松永記念館「収蔵洋画展」

2024.03.30（土）～08.04（日）

別 館 1 階 展 示 室

	作 者	作 品 名	制作年	材質・技法	備 考
1	廣本了	林檎咲く小諸郊外にて	不詳	油彩、キャンバス	
2	赤岡康子	光の中で	不詳	油彩、キャンバス	中河与一コレクション
3	林 武	夕顔	不詳	紙、彩色	中河与一コレクション
4	舟越 保武	裸婦	不詳	紙、コンテ	中河与一コレクション
5	廣本了	春の室内像	1967年春	油彩、キャンバス	
6	井上三綱	島の娘	1953年	キャンバス・油彩（混合技法）	
7	長谷川 潾二郎	洋燈のある風景	1970年	油彩、キャンバス	寄託
8	木村 忠太	静物	不詳	油彩、キャンバス	中河与一コレクション
9	平田 勝規	モレー風景	1982年	油彩、キャンバス	

別 館 2 階 展 示 室

	作 者	作 品 名	制作年	材質・技法	備 考
10	小林 貴久	バケツとガラスのある風景	1987年頃	水彩、紙	
11	加藤千枝	実になる（化身）	1976年	油彩、キャンバス	
12	徳澤 隆枝	もうひとつのりんご	1981年頃	油彩、キャンバス	
13	徳澤 隆枝	四角い手のモニュマン① (ね！ビー玉しようね)	不詳	油彩、キャンバス	中河与一コレクション

関 連 資 料 （ 2 階 の ぞ き ケ ー ス ）

	作 者	作 品 名	制作年	材質・技法	備 考
14	古賀春江	無題	不詳	水彩、紙	中河与一コレクション
15	藤田嗣治	キリストの顔	不詳	木版、紙	中河与一コレクション
16	中河与一	『天の夕顔』自筆原稿（複製）	不詳	インク・原稿用紙	中河与一コレクション
17	中河与一	『天の夕顔』仏訳版（ドノエル社）	1952年	紙・印刷	中河与一コレクション
18	中河与一	『天の夕顔』 スペイン語版	1978年	紙・印刷	中河与一コレクション
19	中河与一	『決定版 天の夕顔』	1986年	紙・印刷	中河与一コレクション

展示室内での写真・動画の撮影はご遠慮ください。
作品にはお手を触れないでください。

【発行】小田原市郷土文化館
〒250-0014　小田原市城内7-8
0465-23-1377

令和６年度　松永記念館「収蔵洋画展」

この度の収蔵品展では、当館が収蔵する洋画から小田原にゆかりのある作品を中心に展観します。

山と海に恵まれた西湘地域は、その豊かな自然と温暖な気候によって多くの芸術家を惹きつけてきました。小田原に生まれた者、一時滞在した者、郷里から移り住み、亡くなるまで制作の拠点とした者など、小田原との関わりはそれぞれですが、各人がこの地と何かしらの縁をもちつつ、自身の表現を追求しました。

ここ板橋地区で晩年を過ごした作家の中河与一氏は、美術コレクターとしても知られています。氏のコレクションは、平成２年から６年にかけて小田原市に寄贈され、当館にて収蔵・保管しています。これらの作品からは、氏と画家たちとの交流の一端を伺い知ることができます。

絵の色彩や表現の違いを楽しみながら鑑賞いただき、お気に入りの作品を見つけてみてはいかがでしょうか。

あかおか　やすこ
赤岡 康子（生年没年未詳）

神奈川県生まれ。小田原南町に在住し活動。昭和49年（1974）第39回西相美術展覧会にて西相美術協会賞を受賞。昭和50年（1975）小田原市美術展覧会にて教育委員会賞を受賞。本展出品作は中河与一旧蔵。

いのうえ　さんこう
井上 三綱（1899～1981）

画家。明治32年(1899)福岡県に生まれる。大正10年(1921)小学校教諭として横浜に赴任。昭和元年(1926)第7回帝展に「牛」が初入選し、以後、帝展に7回入選。昭和3年(1928)小田原市酒匂に移る。 昭和25年(1950)第4回美術団体連合展に出品した「しゃがみかけた牛」をイサム・ノグチが賞賛し、海外でも評価される。昭和27年(1952)小田原市入生田に転居、アトリエを構え、永住する。

油彩・水彩・墨・顔料を用い、切り紙などを組合せ、研ぎ出し・ひっかきなどの技法を混合した独自な表現を確立した。

かとう　ちえ
加藤 千枝（1930－1999）

昭和5年(1930)中井村(現・中井町)に生まれる。昭和13年(1938)小田原町新玉に転居。昭和30年(1955)頃から西相美術展に入選。以後、県西地区で活躍し、昭和36年(1961)西相美術展「議長賞」、昭和38年(1963)小田原市美術展覧会にて「市長賞」を受賞。昭和40年(1965)西相美術協会会員に推挙される。

昭和41年(1966)から国画会展、昭和42年(1967)から女流画家協会展に出品。昭和46年(1971)女流画家協会展「O氏賞」、昭和51年(1976)国画会展「野島賞」、昭和61年(1986)同展「記念賞」を受賞。

きむら　ちゅうた
木村 忠太（1917～1987）

大正6年(1917)香川県高松市に生まれる。昭和11年(1936)画家を志し、東京の二科洋画研究所に通う。翌年、独立美術協会展に初入選。昭和18年(1948)私立の帝国美術学校本科に入学。昭和22年(1947)東京・国立にアトリエを建てる。昭和28年(1953)渡仏し、以後パリに定住。昭和30年(1955)フランスの画界にデビュー、鮮やかな色彩と即興的な筆致で東洋的油彩画として注目される。パリ、ニューヨーク、スイス、東京などで個展を開催。中河与一とは渡仏以前から交流があり、装丁画も手がけている。

こばやし　たかひさ
小林 貴久（生年未詳－1996）

川崎に生まれる。はじめ肖像画家として活躍。1980年代後半頃に風景画を描くために小田原に移る。昭和62年(1987)第46回水彩連盟展に「バケツとガラスのある風景」を出品。

こがはるえ
古賀 春江（1895～1933）
明治28年(1895)福岡県久留米市に生まれる。本名は亀雄(よしお)。
中学時代から絵を学ぶ。大正元年(1912)中学を退学し上京し、太平洋画研究所、日本水彩画研究所に入る。大正11年(1922)第9回二科展にて二科賞を受賞。同年、前衛グループ「アクション」の結成に参加。
同時代西欧の新しい表現の摂取に努め、キュビズムへから出発し、晩年はシュルレアリスムの傾向の強い作品を制作した。 昭和8年(1933)38歳の若さで病死。

とくざわ たかえ
徳澤 隆枝（1920－1984）
大正9年(1920)小田原に生まれる。大学卒業後、井上三綱に師事。教員生活を経て、画業に専念するようになり、主に行動美術協会や女流展等に出品した。
昭和27年(1952)国画会に入選。昭和40年(1965)現代美術協会会員となる。
地元においても西相美術協会の会員として活躍し、昭和57年(1982)からは市美術展の運営委員・審査委員を務めた。

はせがわ りんじろう
長谷川 潾二郎（1904～1988）
明治37年(1904)北海道函館区（現・函館市）元町に生まれる。父はジャーナリスト、母は短歌に秀で、兄弟も文学や詩、演劇などの分野で活躍する。
函館中学を卒業後、大正13年(1924)に上京し、川端画学校で数か月デッサンを学ぶ。その後は独学で油彩画を習得する。 昭和6年(1931)、渡仏。パリの下町のアパートにアトリエを構え、街角や郊外で数多くの風景画を制作する。翌年、帰国し第19回二科展に出品、初入選を果たす。以後、絵画を中心に詩や推理小説などの創作活動を精力的に続けた。「猫」を描く画家としても知られる。

はやし たけし
林 武（1896～1975）
明治29年(1896)東京の麹町に生まれる。家は三代続く国学者の家系。本名は武臣。小学校の同級に東郷鉄春(後の東郷青児)がおり、互いに画才を競い合った。家業の牛乳配達を手伝いながら勉学を続け、ほぼ独学で洋画を学ぶ。
大正15年(1921)妻の幹子夫人を描いた「婦人像」が第8回二科展に初入選。翌年、有望な新人に与えられる樗牛賞を受賞。昭和5年(1930)独立美術協会の創立会員となる。昭和27年(1952)安井曽太郎の推薦により東京藝術大学教授に任命される。昭和34年(1959)日本芸術院賞、昭和42年(1967)文化勲章受賞。

ひらたかつのり
平田 勝規（1928－1996）
昭和3年(1928)小田原に生まれる。市立大窪小学校、私立相洋中学校教諭を務める。昭和28年(1953)西相美術協会会員。昭和35年(1960)ハマ展会員に推挙される。昭和38年(1963)渡仏。以後、パリで制作活動を続け、フランスの風景を明るい色彩で描いた。昭和42年(1967)パリ国立近代美術館外人作家賞展大賞を受賞。翌年、国画会会員に推挙される。昭和58年(1983)に帰国、横浜に暮らす。昭和63年(1988)ハマ展会員復帰。

ひろもとりょう
廣本 了（1899－1980）
明治32年(1899) 神奈川県足柄下郡の下中村(現・小田原市)に生まれる。大正8年(1919)東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学し、特待生に選ばれる。大正15年(1926)帝展に初入選。以後、無監査となる。昭和15年(1940)には白日会会員に推挙される。

ふじた つぐはる
藤田 嗣治（1886～1968）
明治19年(1886)東京の駒込区に生まれる。子どもの頃から絵を描く。明治38年(1905)東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科に入学。 大正2年(1913)渡仏し、パリのモンパルナスに住まう。当時、モンパルナスには若い芸術家が多くが住んでおり、パブロ・ピカソやオシップ・ザッキンらと交友を結んだ。
繊細な線描と乳白色の肌で描いた裸婦像で人気を博す。戦後、再び渡仏。昭和34年(1959)洗礼を受け、レオナール・フジタとなる。
中河与一とは昭和10年(1935)以来交流があり、中河はしばしば藤田の自宅を訪れた。

ふなこしやすたけ
舟越 保武（1912～2002）
大正元年(1912)岩手県盛岡市に生まれる。中学校の同級に佐藤竣介(後の松本竣介)がいた。兄からもらった『ロダンの言葉』に感銘を受け、彫刻家を志す。
昭和9年(1934)東京美術学校(現・東京藝術大学)彫刻科塑造部に入学。在学時に佐藤忠良と出会う。昭和14年(1939)新制作派協会彫刻部の設立に参加。この頃より独学で大理石彫刻を始める。